

(3) ②様式第3号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI / 12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院・教育委員会等 コラボ研修プログラム 支援事業報告書	実施機関名・連携機関名 新潟大学教育実践学研究所 後援：新潟市教育委員会、新潟県教育委員会
	事業名： にいがた教育フォーラム 2024
	研修等名：【NITS・新潟大学教職大学院コラボ研修】 にいがた教育フォーラム 2024 新しい時代の教育実践の構築に向けて
	開催日時：令和6年8月3日 13時～17時 開催場所：新潟大学（新潟県新潟市西区五十嵐2の町 5080） 参加人数（総数）と参加者の属性：（214 名）教員：140 名、行政関係：14 名、他大学：5 名、学生・院生：47 名、保護者・地域等：8 名
目的： 本フォーラムは、教員の質保証及び学び続ける教員の育成を目的として、教職員の主体性を重視した教員研修の場を提供する。 そのために、教職大学院教員の専門性を生かしたワークショップと教職大学院生が自身の問題意識や学校課題を基に探究的に取り組んだ実践の成果や課題を報告し参加者と学びあうラウンドテーブルで構成する。ワークショップでは、外部講師から情報提供や話題提供を行うとともに、参加型のワークショップを行い、参加した教員が学びあい新たな気付きを得られるようにする。また、ラウンドテーブルでは、本学教職大学院院生の取り組みの成果と課題を報告し、同じ課題意識を持つ県内外の教員や関係者との意見交流を通して学びあう集団の輪を広げる。	
内容： ※全体発表の内容をテーブル起こしするなど、具体的に記載してください。 (1) ワークショップ 「新しい時代の教育実践の構築に向けて」をテーマにして、第1部では教職大学院教員が9つのワークショップを開催した。子供への指導としては、令和の日本型教育の実践に向けての個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実の在り方やデジタル化が進む環境科での授業づくり、各教科や生活・総合においての子供の探究を具現する指導の在り方、特別支援教育充実の点から考えた。また、学校環境として、不登校対応に向けた校内チームづくり、校種間連携、人材育成の点から考えた。各ワークショップでは、講師を招き、参加者の声をもらいながら参加型の運営を行った。大学院教員の話題に対して、学校現場や教育委員会の視点より多角的・多面的な意見交換ができた。 (2) ラウンドテーブル 第2部では、大学院生の学びの交流としてラウンドテーブルを開催した。9つのブースを開き、これまでの学びや今後の方向性について、県内外の学校教員や大学関係者と意見交流を行った。	
成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記載して下さい。 令和6年度は、参加者 214 名であった。参加者アンケート回答者（132 名）のうち、初参加が 63.5%、2 回目以上の参加が 35.7%（2 回目 15.1%、3 回目 9.5%、4 回目 11.1%）と継続的に学び続ける研修機会として機能していることが確認されている。フォーラム全体に対して、参加者アンケートでは、「大変に良かった」34.5%、「良かった」65.5%という満足であった。 教員のワークショップへの記述からは、「これまであまり考えてこなかったような視点からの授業づくりや考え方を学ぶ機会になった（探究型の数学授業）」「今後、向き合っていかなければならないテーマなので、大変に勉強になった（人材育成）」「英語、総合、家庭での実践をお聞きし、各教科、目指すところは同じ、そのためのツールとしての ICT であることを、確認することができた（デジタル化の進む環境科での授業づくり）」「大学教員研究ネットワークを活かし、県外の実践について学ぶ機会となった（総合的な学習）」「他地区での接続の在り方を知ることができた（幼保こ小連携）」「専門的な視点からのお話をお聞きすることができ勉強になった（特別支援教育）」「複数の授業実践を聞くことができ勉強になった（体育）」といった意見を多数いただいた。 院生のラウンドテーブルへの記述には、「大学院の研究として素晴らしい内容、省察だと思う」「省察を促す先輩教師の働き掛けがとてもよいと感じました。これを現場の教員に広めることが大切だと思います」「研究者一人ができることではなく、教員全員で共有し、組織の中に根付かせていくことが必要であると考えました」「自身の研究して	

いることと近かったため、とても参考になりました」「自身の精察の重要性と他者に省察を促す関わりの難しさやそのためのポイントについて学ばせていただきました」といった、自身の教育実践に参考になったという意見を多数いただきました。

「NITS からの提案（第一次）」との関連における研修担当者としての気付き

- (1) 研修観の転換を図る研修：講師の話を聞くにあっても、参加者が自ら考える問を示すことで、自分に引き寄せて考えられる。
- (2) 子どもの学びと教師の学びの相似形：参加した教員自身が、自分の意見を述べともに交流することでより深く理解し、満足感を得られている。このことは、子供の学習にとっても子供の参画や探究が重要であることへの理解と授業改善につながる。
- (3) 主体的で探究的な取り組みと、学びの共有：教職大学院の現職院生が、自身の学校での取り組みを整理して報告することで、参加者は自身の学校の取り組みを投影して議論に参加できる。

アイデアや工夫したこと：※実際の様子がより分かるよう、必要に応じて写真や図を用いて説明してください。

(1) 教員・院生の強みを生かす：高い専門性、現場での実践で得られた実践データと実感
実践的な立場からの具体的な事例・データを前提におきながら、理論的な立場からの具体例に即した論理とを整合させることで、参加者が議論しやすい場を設定したこと。本学教職大学院の様々な専門性が参加者の多様なニーズに対応したと考える。

(2) 参加型の研修への転換

ワークショップ、ラウンドテーブルのどちらも、参加された方々は、積極的に発言をしていた。フォーラムの趣旨のとおり、発表者および参加者は新たな学びを求め議論したい方々が参加しており（自由参加・無料）、今日的な課題設定が、参加者のニーズと整合したことによると考える。また発表者側も、議題を準備し、積極的に発言をうながしていた。

(3) 開催方法の工夫

Zoom での開催によって、参加者の状況に応じて参加できた。参加者の満足度が高いこと、参加者が今後の教育に見通しをもてたことから、現在の教育課題について話題提供及び今後の指導面に具体的な提言や意見交換がなされたと判断できる。また、参加者の割合が、半数が複数回参加経験者、もう半数が初めの参加であった。リピーターが多いことから、このフォーラムに提案性があることや、フォーラムについての期待感がうかがわれる。また、初めて参加する方も多くいることから、周知が広まってきたことがうかがわれる。「私のように他県からも参加することができるので助かります」といった声もあった。今後も、教員のワークショップや院生のラウンドテーブルにより、今日的な教育課題を多面的かつ理論と実践を往還したとらえで提案していきたい。

新潟大学 75th
NIIGATA UNIVERSITY
教職大学院
2024 にいがた教育フォーラム
新しい時代の教育実践を学べる
研修会にオンラインで参加してみませんか!?
令和6年8月3日(土)
後援 新潟県教育委員会・新潟市教育委員会
令和6年度新潟県・新潟市教育委員会・新潟市教育委員会共同主催
【申請中】
テーマ「新しい時代の教育実践の構築に向けて」
1 日時 令和6年8月3日(土) 13:00~16:45 (入室 12:45~)
2 日程と内容
【開会】13:00~13:15 ①研究科長挨拶 ②本フォーラムの進め方の説明
【ワークショップ】13:15~14:45 詳細2面
・本大学院教員主催のワークショップから一つ選択して参加します。
【ラウンドテーブル】14:45~16:35 詳細3面
・本学院生による研究紹介や課題提供をもとに自由に話し合います。
【閉会】16:35~16:45 ③研究科長挨拶
3 参加申込について 詳細4面
事前申込が必要です。参加費無料。4面のQRコードでお申し込みください。締切：令和6年7月30日(火)
4 問合せ先 新潟大学大学院教育実践学研究所
E-Mail: forum2024niigata@gmail.com HP: <http://www.ed.niigata-u.ac.jp/kyousyoku/> 【リニューアル】